

泥土の香りが万物を養育する 真実に体現ギリシャ文明の感悟-「人と自然」の境

73歳の董事長が、今回上海にご来臨なされた目的は、只の花見だと思いました。会社には、四月になると、春風と春の暖かきの恩恵に色々種類の花が次々に咲き乱れ、「合璧」全部が各種の花に囲まれ、まるで大花園の風景になり、社員等を誘い出し、花の世界に散歩するののも一つの幸です。大花園には、桃の花、桜の花、茉莉花、パイオレット—等が「我先きと言わんばかり」に相争って嬌艶に咲き乱れ、艶然なる美を呈している様に。「合璧人」の人々は疲れた時、櫻木にもたれて休む事は、最大の享受とも言って宜しい。特に心情は平常より快樂尽くしです。董事長も自らそう感受していらっしゃる筈です。



満園櫻花、紫蘭花與「禪」相互辉映

私は、董事長が四時半頃起床するわけは、只の健康運動ではなく、事実上、毎日そうではなく、事務室で花草や植木鉢を整理修整しているのです。平凡な「清明節」は私達の休みの日です。然し社長殿が単独的に事務所で非凡な仕事に精を出しています。草を刈ったり、鉢で植木を修整養護に動んだりしておられます。多数な同志達は、この光景を見て、董事長のこの仕事についての心掛けが納得しました。それは私達に徐々に習慣転換を引導しているわけです。それは「人間と自然」の改変です。

ギリシャ文明は「人間と自然境界：真、善、美、共生共栄」、こう云う時に植物が外界の陽光を浴びると、人目を奪う、とかいてあります。然し、この事は「合璧人」から見ると、最も平常な事です。現在合璧には700名余りの社員が平均毎年5000輪の花を分配できて、別の会社にはそんな数多い花は無いと思われまふ。董事長は、宛も園芸技術員の如くばかりでなく、工場区的环境建設に力を注ぎ、美しさを各所に露呈しています。真実に「人間と自然」の真諦を体現している。

私達はいつもテレビ劇で企業社長が家で草花を栽植するシーンを見た事があるけれど、私等の董事長は全く同じではない。彼は清明節は公休の日にも拘わらず、朝四時頃会社の社長室に入り、念入りに150本(木台の上に載せてある)の台湾竹を整理、新しい葉っぱが出て、枯れて残存している鉢の竹葉を鋏で切り、手で堅い土を掘って柔らかい土に変える。この様にして、時には指に傷ができて、血が流れました。彼が云うには「泥土芬芳、万物を養育、そして、盆栽にも靈性があり、だから柔軟な手指で土を掘振する。こうすると、温もりを植物に与え、始めてもつと強く成長する。」終わりに一鉢毎にきれいな水をかける。最後に盆栽に残った水を流し、もう一度盆栽の周囲をきれいに拭いて「一塵不染」になる。以上の一つの盆栽処理は大体三分間。この時費やした四百五十分は宛變の過程で、思いやりと、そこやかな筋の重要体現です。董事長は年老で視力も衰えとも、私達に教導したり、何しろ草花に対しても又、心意使い尽くし、まして人間に対してその熱情もつと旺盛だと窺われます。その外、私は董事長に上述の如き、例を以って、別の意義では、私等に事に当たれば、細かい筋を重用に注意せよとの事を教えられました。それで、「合璧人」であるこそ、当然「珍重せよ！」と。



朵朵玫瑰上枝頭、淡淡清香隨風揚

董事長が台湾へ帰るあの日、会議室に皆に厳厲教導している時、私の心中は感慨無量で、創業から今まで、董事長は合璧会社の成長と進歩を見て、当然愉快と安逸陶取と思えますけれども、彼の心中には「未来の五年は黄金時代、又危機五年」と思える事を意識しました。それで董事長は、成功の方法私等を教育しました。私は心の中で自分を励まし、「必ず實際行動を以って進歩改良に突入と頑張れ！」と誓いました。

仮に董事長が私達に教え導きなければ、私達は以前と同様、呑気で草花に世話するとか、仕事細緻無きとかはいけません。未来40年、会社は絶対に呑気な気持ちと態度は許せません。市場上の枝頭競争は、来れば来るほど激化はなり、若しこうしたら未来40年我達の品質、効率、納期、サービス等が停滞不進し、又アップする事ができなく、甚だしくも、歩けば歩くほど悪くなります。それで、今から私達の必需改変を始めよう！

董事長が曰く「外界に妖艶な花が無くても。但しその花に最も光り輝く一面ある筈で、私達がそれを発見すれば、極平凡な人でも、細かい筋の利く培育方法をとれば、不平凡の人でも培育できる。然し、我達は謙虚に学ぶべきなり。」又、「重視細かい筋面の人は、何かの事情処理の過程で、きつと多く処理できるでしょう！但し、彼は必ず普通の人より、所得が多く、成功の機率も大のものです。」

それで、私達が人と自然的最高境界が解る時、自分身の草花および製品、新人などについて、まるで我等の子供と同じ対応し、誰にも心の中では愛心満々させます。愛があればこそ、始めて真、善、美が抱擁することができます。

そもそも、董事長は既に「合璧経」の聖人であって、彼は私達に上述の神聖「合璧経」以って我達の心靈を美化し、「合璧」は会社のみならず、しこうにして学校、家庭とならせ、更に、私達一生運値ある学習の所である。

上海合璧電子有限公司

中國201-805上海市嘉定區安亭鎮安瑞路318號

TEL:+86-21-5950-5466



脫胎換骨充滿生命力的台灣竹

董事長が台湾へ帰るあの日、会議室に皆に厳厲教導している時、私の心中は感慨無量で、創業から今まで、董事長は合璧会社の成長と進歩を見て、当然愉快と安逸陶取と思えますけれども、彼の心中には「未来の五年は黄金時代、又危機五年」と思える事を意識しました。それで董事長は、成功の方法私等を教育しました。私は心の中で自分を励まし、「必ず實際行動を以って進歩改良に突入と頑張れ！」と誓いました。

董事長が台湾へ帰るあの日、会議室に皆に厳厲教導している時、私の心中は感慨無量で、創業から今まで、董事長は合璧会社の成長と進歩を見て、当然愉快と安逸陶取と思えますけれども、彼の心中には「未来の五年は黄金時代、又危機五年」と思える事を意識しました。それで董事長は、成功の方法私等を教育しました。私は心の中で自分を励まし、「必ず實際行動を以って進歩改良に突入と頑張れ！」と誓いました。



上海合璧 品保課主任 劉雪花

瀧の下、岩窟の中、合璧情

五月の一日の短い休暇に、幸運にも董事長と一緒に渾名「小黄山」と称する大明山へ登り、収穫多きでした。

第一回目の午後、一行は車を飛ばして大明山横腰の「大明山荘」に到着しました。皆、行李を卸し、董事長が引率して登山の道を探し尋ね出した。そして私達に「事ありては、充分の準備せよ！」と指示教導しました。晩食は李高燕先輩が既に段取りして貰って山中味の御馳走を享用しました。董事長は、赤玉(紅酒)をちびりちびりと小酌し、山中の新鮮空気は皆に心中平穩、精神快樂の感覚を与えてました。

第二日目の蹣蹩の朝、山荘中の旅客まだ酣睡中に、董事長が私達を引率して、龍門峽口まで上がりました。一路中、溪水が相伴い、董事長はいつも私達に「足を止めて流れ水聞きなさい！」そして又我達に遐想に耽けながら、山登りしなさいと教えました。その目的は、私達に「山登りは路中の美景を享受認識して欲しい。早足で頂上まで登るのではない、とおっしゃいました。」「分明星」、「朱眼石」…一つ一ついい風景場所私達は皆静座、目、耳、鼻、心等を用いて体験領解と感受する。山登りの途中夜明けになりました。然し山の中は依然として私達数人だけで、大明山は、顕然にも既に「合璧人」に独享されたみたいです。それで、董事長は：「この山は『合璧山』、谷水は、当たり前『合璧溪』に改める」とユーモアを飛ばしました。「衆人皆睡、合璧独醒の故ですから。この山の上には、恐らく再び第二群に感受難しいと思います。これを以って『合璧人』は不経意間にこの記録を創造したわけです。」

石階段に沿って上へと上がり、有名な如意谷まで辿りました。万刀峭壁に突立った如意松。「雍々華貴」、「儀態万千」の皇后樹と明妃七峯とお互いに対照して面白い感じがする。言わば相映成趣。峯の石は皆女性化で、施壯渾厚の大明山、幾分かの柔美と浪漫がある。その間に「三瀧三潭」、「三場三嘆」、氣勢雄偉、轟然と鳴り響き、頭を挙げて見ると、飛行機が一機南から北へと飛んで行く。中国の詩人が曰く：「仁者樂山、智者樂水」。董事長は正に仁智兼備の奇士で、ついでにこの絶景中に私達に氣功を教えた。耳辺にそよ風が掠め、瀧の水が響き、雀達がピーピー鳴き渡り、あちこちに飛び回り、誠に「物我両忘」、「天人合一」に響えられる。昔、明の始皇帝、朱元璋が、この所で作戦準備、皇帝となって天下を取り…然し朱氏と董事長と同じ仁智が天水山川と共鳴らし、仙人と比べられと思います。

龍門飛渡まで歩き、瀧の飛渡は雷鳴如きの声、峡谷の底無しは、深淵の感がする。いたずら同遊者がわざと大揺れ、数多きの刺激で、胸がどきどき。元々恐高症の私が白髪蒼蒼の董事長が面には危色も無く、勇氣百倍で「飛渡」に乗り、天壘を過ぎ、懸空棧道を平らの川の如く通過しました。董事長と一緒に行動する事、確かに奇蹟が出現するとつづくと思われました。その後、私達は万米岩窟洞に着きました。1958年に軍職を解除した第一回目の新中国の鉱工大明山に進駐、國家建設に急務のウォルフラムを開発。今の所、その仕事は終了したけれども、却って中国山岳建築の一大奇観遺留したわけです。大明山トンネルは曲折幽深で、六座の山岳を貫通、縦横一万余メートル涼しい風が吹いて来て、季節が変わった様に感じる。頭の上に響き落ちる音を聞いて、まるで洞窟が永い間空たれたみたいです。この時、董事長はハーマニカを出して、私達の熟悉又親切なメモリーを吹奏し、私達は彼を囲んで歌いました。その歌詞は「私の家は本当に可愛い、清潔美満又康安、姉妹兄弟皆温厚、父母は慈愛あり…」神奇な岩洞窟、輕揚な琴声、喜悅な歌声。こんな難しいシーン…董事長は又も我等生命中に、忘れ難い痕跡を留めて下さいました。

第三日の朝、董事長は平常と同じ四時頃部屋を出て運動に行きました。この事は数十年に亙るの堅持的習慣原則で、平常の毎年、風吹き、雨降り…等ずつと中断したらず。この様な剛毅は、世界中には第二人よりは探し難いです。私達が山荘から離れる時、我等に彼の部屋招入させ、ふとん、コップ、スリッパ、腹取りの箱おぼよびはばかりの手ぬぐい、バスタオル等きちんと、又きれいに整理してあるのが目に着く。この70多歳老人の作為は私達にとって、実に感懐に堪えません。皆各自の部屋に戻って、早く整理整頓に没頭。後に皆した事です。昨夜董事長が腹の具合が悪く、頻りにばかり通し、その為に便器を自分で反復に清浄しました。これ聞いて皆は、心に動揺させるを得ないものです。

大明山の一遊は、自然美景を眼福「豊作」したが、然し貴重な「豊作」は、近距離で董事長の日常生活中自然顔の謙虚を体験し、博愛と智慧は私達一生運に珍藏の値ある宝物だつづくと思われました。

上海合璧海外營業同仁 唐兆沛

印象-「合璧」

「トン、トン、トン…」と、一陣の急速な門叩きの音が週末の朝の寧静を打ち破り、心の中では：「一体何事だ、週末でも私達にぐすり眠させられず、ほんまの「静夢攪乱者」だ皆皆愚痴をこぼして。続いて宿舎管理員が喜びながら言いました。「早く起きろ！自分の寝具と荷物を整理して、それを暫くベランダに置いて下さい、会社が皆に寝床をベッドにチェンジしますから」と大きな声で叫んだ。これ聞いて私は心中に欣容に溢れ、早速起床して整理終って後、胸がワクワクしながら、僅れの新しいベッドが来るのを待っていました。この時突然頭の中に何かの記憶が掠れました。考えれば、それは第一回目に家を離れて、他所の会社に務めるとの事と同じ、早朝起床し、自己の荷物を整理。出発前父母、爺、婆等が私にくどくどとの訓示等が耳の中から甦り、心の中では、僅れとストレッチの都市生活の善き小躍りするあの時、彼等の訓示話は、特別に「五月蠅い」と感じましたが、今の所そんな事なく、反って非常にその熟悉の声が恋しくなり、家の事を思い出し、心の中では：「今の所、故郷の年長者は如何かと思わざるを得ない。」

午前が過ぎ、待ちに待った新しいベッドが運搬して来た。ベッド材料等をベッドに構作する組立師匠が突然私に：「ここは学校ですか？」と乱しました。私は得意気に：「あなたさんは、ここへ来たのは始めてですか？」と言い返した。思えば、私は当初この会社でインタビューの時、やはりこの類な感覚でした。けれども私はまもなくこの環境に「征服」され、仕事一段落後の休みに、私は「この会社は私に自分の家みたい様な温情を下させた。」との覚えがします。件の組立師匠が続いて曰く：「俺は親類や友達にこの所を推薦するよ！と早合点します。過去の仕事環境を顧み、しみじみ思えば、外出仕事は長いですが、こんな立派な企業文化はどこにも無く、このよう芸術薰陶、塑像博物館、花の海、小橋の下の流水と人達…等は丁度良くこの環境を形容できなく、且つ何の言葉でジャスト的に言い表せません。」

上海合璧模具課同仁 李飛

合璧は我等温もりの家；我は合璧を愛し、合璧は我を愛する；關心關懷關照 同心同步同調！

